南アのテロ・誘拐情勢について

１　テロ情勢について

コンゴ(民)及びタンザニアの一部地域を除き，南部アフリカ地域は比較的安定しており，従来，テロの具体的な脅威が確認されることはありませんでしたが，一昨年前にはタンザニア南部のムトワラ州において，イスラム過激派組織アル・シャバーブの関係者が軍事訓練を行っていたとして治安当局に摘発される事案が発生しています。この例に見られるとおり，南部アフリカ地域はテロ活動の温床として利用されているのが現状であり，南アも例外ではなく，一部メディアでは，南アは法規制の脆弱性や政府内の汚職等を背景に，資金調達に係るネットワークの構築や軍事トレーニングを目論むテロ組織にとって理想的な国であると報じられています。2014 年 11 月に発表された「グローバル・テロリズム・インデックス 2014」によれば，南アにおけるテロの脅威度は，2010 年の 140 位から 48 位にまで大きく上昇しています。これは南ア国内におけるテロ組織の浸透を反映した結果であると思われますが，最近の調査結果からは，南ア国内からＩＳＩＬの戦闘に参加した南ア人ムスリムの存在が確認されています。南ア国内では欧米権益をターゲットにした重大なテロ等はこれまでのところ発生していませんが，今後，ＩＳＩＬやアル・シャバーブ等のテロ組織が，国内の過激派組織を介して影響力を及ぼす可能性は否定できません。

２　誘拐事件の発生状況

本年９月に南ア国家警察が公表した年間犯罪統計（2013 年４月～2014 年３月）によれば，南ア国内で１年間に 4,158 件（前年比 0.4%減）発生しており，10 年前と比較すると約 1.6 倍の増加率です。地域別に見ると，首都プレトリアが所在するハウテン州内における発生件数が最も高く，国内全体の約 31%を占めています。犯行の態様は，高所得者をターゲットにした身の代金目的の誘拐事件や子どもの親権を巡り誘拐事件に発展したケースなどがその多くを占め，外国人をターゲットとするテロに特化した拉致事案等は，これまでのところ確認されていません。また，外国人ビジネスマン等をターゲットにした 419 詐欺（ナイジェリア人等を中心に組織化された国際的詐欺）事件に絡む誘拐事案も報告されています。メール等を介して架空の商談に応じてきた相手を拘束し、多額の身の代金を要求するという手口ですが、2008 年には、南アへ入国する直前に事案が判明したために、被害を未然に防ぐことができた(注)日本人の被害例（未遂）もあります。欧米と比較した場合、南アにおける誘拐事件の態様は、金銭目当てや感情的な理由等による短絡的かつ稚拙な犯行によるものが多いのですが、犯行前には入念な下見がなされています。決して警戒心を緩めることなく、日頃から防犯意識を高く持つことが肝要です。また、南アでは政府内の汚職やガバナンスの脆弱性等を背景に公的文書が偽造されている可能性があります。商取引のほ

か、契約等に係る一切の書類の信憑性，取引相手の信用性の判定には十分注意するようにしてください。

（注）　偽の高額商談を持ちかけられた被害者が，南ア到着後に犯人側に拉致され，被害者が所属する企業を相手に多額の身の代金を要求したもの。

３．日本人・日本権益に対する脅威

現在までのところ、日本人及び日本企業をターゲットにしたテロ，誘拐等の重大事件は発生していませんが，アジア人をターゲットにしたカージャック事案や偽警察官による強盗事案が発生しています。ほとんどのケースでけん銃が使用されていることから，今後，一層の警戒が求められます。